事例５　ＶＯＣＡ等の情報機器を活用した音声表出の難しい生徒の表現力を高める指導

総合支援学校　中学部
国　　語

キーワード●コミュニケーション支援　●ＶＯＣＡ
●発表する、読む、書く

「どの写真かな？」

１　単元の学習

●単元目標

○写真を媒介にして友だちとクイズ形式で会話することを楽しむとともに、自分のもっていることばと友だちの知っていることばを照らし合わせることで、語いを増やす。

○音声やＶＯＣＡ、単語カードを用いて写真カードの人物の服装や動作について伝えることで、名詞・動詞・形容詞等、品詞の働きの違いに留意しながら表現する力を高める。

●対応する学習指導要領の内容

教科・領域等	内　容　等
国語 （知的障害の生徒を教育する場合）	・見聞きしたことなどを相手に分かるように話す。 ・話のおおよその内容を聞き取る。
自立活動（コミュニケーション）	・言語の受容と表出に関すること。 ・コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

２　指導略案

●単元指導計画

指導内容等	時間
①クイズのルールを考えよう	１時間
②写真に写っている人物の服装や持ち物、動作を説明しよう （音声言語・ＶＯＣＡまたは単語カードの利用）	４時間
③友だちに人物あてクイズを出題しよう （写真に写っている人物の服装や行動の特徴の説明）	（本時）１時間

●本時の目標と展開

【目標】

○写真を媒介にして友だちと会話する楽しさを味わう。

○音声やＶＯＣＡ、文字カードを用いて写真に写っている人物について説明することで、表現する力を高める。

【展開】

学習活動	教師の働きかけと指導上の留意点（情報機器・教材の活用）
①前時の学習（写真の人物の説明）と本時の課題を確認する。	○本時の学習内容を知らせ、学習に見通しをもたせる。 ・それぞれが前時に選んでおいた写真を担当教師と一緒に確認させる。 ・出題する順番を生徒同士の話し合いにより決めさせる。
②自分の選んだ写真がどれかを友だちに答えてもらうクイズをする。	○次の点に留意して、生徒に出題させる。 ・「誰が写ってるか」が答えになるクイズを出す。 ・音声表出の難しい生徒が出題する場面では、ヒントとして提示する単語カードファイルやＶＯＣＡを安定した場所に置き、教師の恣意的な動きが加わらないようにする。 ・１度に提示する文字カード写真を６枚とするが、生徒の状況により、４枚、２枚と選択肢を絞る。 ・生徒同士がかかわり合うことを大切にして、生徒自らが考えさせるようにする。

	○次の点に留意し、生徒に解答させる。 ・クイズの正誤にこだわりすぎないようにさせる。 ・写真に写っている場面やそのときの状況、楽しい出来事を想起させ、ことばを拡げるとともに写真について会話する楽しさを味わわせる。 ・状況によりヒント単語カードファイルを使い、音声言語のヒントだけでなく、文字・写真で確認させる。 ・音声表出が難しい生徒が視線や表情等で表現していることにも他の生徒に気付かせる。 ＜評価：教師が介在せずに生徒同士がかかわった頻度はどの程度か。＞
③互いのクイズのよかった点、工夫するとよい点を確認する。	○教師は、一人ひとりの出題のよいところ、印象的な部分を紹介し、全員で確認する。 ・本時の学習活動の中で、生徒に応じて、出題の仕方（ヒントの出し方）の工夫について触れさせるとともに、自分のよかったところ、友だちのよかったところを考えさせる。 ・次時は、写真あてクイズのまとめをすることを知らせる。 ＜評価：自分が新たに使えるようになった単語（カード）を発表させる。＞

3　展開の実際

ＶＯＣＡ（ｽｰﾊﾟｰﾄｰｶｰ）

【語いを拡げるために】

生徒の内言語を充実させることは非常に重要である。肢体不自由のある生徒のように、動きが困難なため、体験を通したことばの獲得は難しくても、他人の行動を見たり聞いたりして、イメージしたり説明したりするためのことばを身につけることが可能である。

また、ことばを、その働きや表す内容によって分類し、整理することも必要な課題である。特に、音声言語の表出が困難な生徒が、ＡＡＣ（※１）手段として、絵カードやシンボルマークを並べて貼り付けたコミュニケーションノートやＶＯＣＡ（※２）などを意思の表出手段とする場合には、使う状況や場面によってことばを分類・精選する必要がある。

＜注＞（※１）（※２）については、資料編の用語解説を参照

【日常生活や卒業後の生活を楽しむために】

クイズには、学校や学習グループの身近な人物が大きく写っている写真を使った。写っている場面や撮影時の状況など、楽しい出来事を想起させ、理解できることばの数を増やすとともに、写真を話題にして会話する楽しさを十分に味わわせたいと考えた。

4　情報機器等の活用の工夫

【コミュニケーションの対象を明確にする】

カード選択による会話では表現の幅が限られるが、本事例では、表現する対象をある程度限定したので、視覚情報をことばにするための絵入りの単語カードを豊富に用意した。ＶＯＣＡや５０音表、発声やジェスチャーと併用することで、表現したいという気持ちを大切にしたいと考えた。

＜本事例で使用したコミュニケーション手段＞
○サイン、ジェスチャー
○身近な人物の写真のファイル（見開きで６枚）
○ヒントとなる単語カード（ファイル）
○ひらがな５０音表
○ＶＯＣＡ（「スーパートーカー」）
○自作作業台（足でファイルのページをめくる）

5　情報機器等の活用の効果

音声表出の難しい生徒は、教師の仲立ちがあって初めて生徒同士のかかわりの持てる場面が多い。だが、生徒は、友だちに自分の気に入った写真を分かってもらおうと写真の人物の服装や動作などについて、自分の知っていることばを組み合わせて表現方法を工夫した。教師を介さず、生徒同士で直接かかわることの楽しさを知った生徒たちは、授業時間だけでなく昼食時間、休み時間など生活全般で直接的なかかわり合いを楽しみ始めている。